

# 若手リーダー一錬成講座

開設趣旨書  
講座概要  
実施要領

(株) 日本経営開発研究所

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20 汐留ビルディング3階

電話 東京(03)6721-8607番(代表)

FAX 東京(03)6735-4607番

H P <http://www.nihon-keieikaihatsu.co.jp>

e-mail [info@nihon-keieikaihatsu.co.jp](mailto:info@nihon-keieikaihatsu.co.jp)



\*より詳細な問合せは上記に

## 若手リーダー錬成講座開設趣旨

(株)日本経営開発研究所

今や日本は、1人当国民所得においてヨーロッパに追いつき、国民総生産において、アメリカ・ソ連につき第三位の経済大国となりました。そして、この趨勢が順調に進めば、昭和60年頃には、1人当国民所得において、アメリカを追い越し世界一の所得水準の国になると推算されております。

しかし、これにはいくつかの条件が必要です。その主要なものの第一は平和であります。日本は資源の乏しい国でありますので、必要な資源のほとんどは輸入に仰がなければなりません。また、輸入が多ければ輸出も多くなければなりません。かくて、昭和50～55年頃には日本はアメリカを追い越して世界一の貿易国になろうと推算されています。このように貿易で生活していく国にとって、世界の平和が破られれば、高度成長は一度にストップします。ところで、世界史のなかで世界一の貿易国は常に世界一の海軍国でもありました。しかし、日本はこの世界史の常識を破って丸腰で世界一の貿易国になろうとしているのであります。果たして、世界史の常識を破ることができるでしょうか？

次に、アメリカを追い越す生産性を達成するためには広い意味での科学技術において、アメリカをも追い越すことが必要となります。今までのように外国語を勉強し、外国の模倣をすることが学者や技術者の任務であったような状態では、アメリカを追い越す生産性は到底達成されるはずもありません。ところが現在の日本における科学技術面での人材養成や、資金は他国に比べ非常に低く世界第一の水準になるような態度や心構えはうかがえませんが、これから、この課題を果たさなければ日本がアメリカを追い越す生産性に達することはできないでしょう。

上記の如き基本的課題が果たされたとしても、なお公害を減少させ、更にまた公害を発生させないで（地球を汚さないで）高度成長をどう進めるか？ インフレを昂進させないで高度成長と賃金上昇と完全雇用をどう達成するか？

価値観の多極化のなかで、いかに民族的、国家的合意を作りあげるか？ 他国のねたみ、そねみ、謀略のなかでいかに国の平静を維持していくか？ 一面から見れば、日本民族がいまだ経験したこともない世界に冠たる生活水準の国になろうとしているという意味で何とも結構なことですが、一面では、その世界が、諸々の条件が不充分でありながら、経済生活だけが世界一という非常なアンバランスの上に組み立てられつつあり、このままで推移すると大きな破綻が起こるのではないかというそら恐ろしさを感じるのであります。

戦後、われわれ日本人は国として民族として軍事、外交面での誇りや権威を奪われ、ひたすら経済の復興に没頭して参りました。そして気がついてみると他の点はともかく、経済面からすれば、日本は超一流になっているのであります。

昔なら英才の過半数は軍人や役人になったのに、今日では軍人や役人はむしろ英才にとっては例外的就職場所となりつつあります。

かくてこの日本がいかに平和に繁栄を享受できるか、これをリードすべき指導者の英知と努力にかかっていると云えましょう。そして経済こそ世の指導者であり、国の指導者なのです。ですから、企業の後継者がしっかりした理念と魂と能力を身につけて、しっかりした決断と行動のもとに自己の企業を背負って立つと共に、企業外の国の政治や経済や軍事、外交に関しても識見と正しい抱負をもって事に当たることが要請されます。日本を背負って立つのは、その意味で企業のエリートであります。この企業エリートがどのように考え、行動するか。これが明日の企業と日本を決めると考えます。

ところが、戦後日本の教育は戦前教育の正反対であり、戦前教育にあった誤りに反対するあまり、逆の反対の意味での極端主義に走り、大きな誤りを犯そうとしているのではないのでしょうか？

そのいくつかをあげれば、

<戦 前>

唯 心 主 義

右 翼 観 念 論

エリート主義

日本美化主義（国粹主義）

<戦 後>

唯 物 主 義

左 翼 観 念 論

凡 俗 主 義

日本軽蔑主義（無国籍主義）

いずれも科学的な冷静な事実を尊重する精神に欠け、イデオロギーが先行した教育であり、その意味では戦後教育は戦前教育と反対の意味で誤りを犯し、しかも、両方とも事実よりイデオロギーが先行しているという意味で同じ誤りを犯していると思われま

す。我々の後継者たる若者たちは、このような教育を受けて企業に入っております。しかも企業の若手は昭和2桁の時代になりました。戦争の恐ろしさ

と苦しみを知らない人達が、大半を占めようとしているのです。我々が多くの死の苦しみのなかから学びとった遺産をこれらの若者たちに正しく伝えなければならないと思

います。今日の日本では、このような正しい教育をしようものは「実践者」としての企業しかないのであります。その意味で、このような将来の幹部候補たる若手エリートを早く正しく方向づけることが必要だと考えま

す。この錬成コースは、このような趣旨で私の長い間の経営指導や企業内の幹部教育の実践のなかから考え出したものであります。将来の企業、明日の日本を背負って立つ若手エリート、大学を卒業して数年前後の人達、販売に開発に生産技術に、人事・財務のスタッフに、その力量を発揮し始めた人達、そして一方で企業内の文化・レクリエーションのリーダーとして、はたまた労働組合のリーダーとして活躍し始めた人達、このような人達の錬成、特にもの見方、考え方、心もち方、生活態度といった基本的なものを中心に寺子屋式に少数で寝食を共に勉強しようと考えま

す。貴社の社員、あなたの部下や後輩のなかで上記の趣旨で是非参加させたい人材がおりましたら御推薦下さいませよう御案内申し上げます。

1971年（昭和46年）5月

## 追 補

上記は、この「若手リーダー錬成講座」を最初に開催した際の趣旨書です。以後、45年以上が経過した今日においても、この趣旨書を一言一句も修正することなく、今日そのまま世に問うことのできるのを誇りに存じます。

逆に、AIが発達し、経験や知識といったものの価値が急速に低下していく今後においてこそ、もの見方、考え方といった基本が大切になっていくことでしょう。

日常業務から一度離れ、視野を広げ、企業は、そして自分自身はどうあるべきか、徹底的に考える。この思考のプロセスを経て掴んだ「志」こそが、その後の成長を確かなものにしていくのです。

弊社は、将来の企業、そして明日の社会を背負って立つ若手人財を育て続けるという使命感をもって、今後もこの講座を続ける決意です。

2017年（平成29年）11月

## 若手リーダー錬成講座 基本プログラム

|                |  |
|----------------|--|
| 合宿研修前<br>約1ヶ月間 | 事前宿題<br>テキスト「企業および企業人」精読・論文作成・各種アセスメント実施・自分史作成 |
|----------------|--|

|            | 午 前  | 午 後  | 夜   |
|------------|--|--|---|
| 第1日<br>(日) | 昼 集 合  | <u>オリエンテーション講義</u><br>「本講座の意義と受講上の心構えについて」<br><br><u>講義</u><br>「日本経済の歩みとこれからの課題」 | <u>小グループ討議</u><br><br>「これからの世界・日本の見方・考え方」   |
| 第2日<br>(月) | <u>MDP</u><br>「これからの世界・日本の見方・考え方」<br><br><u>講義</u><br>「生産性と付加価値」 | <u>MDP</u><br><br>「企業とは何か・経営とは何か」  | <u>論文作成</u><br><br>「企業の運命と従業員の運命」   |
| 第3日<br>(火) | <u>論文発表</u><br><br>質疑・コメント・補足講義                                  | <u>MDP</u><br>「企業の見方」<br>「経営の見方」<br><u>ケース・スタディ</u><br>倒産ケース                     | <u>グループディスカッション</u><br>「これからの日本の経営のあり方」   |
| 第4日<br>(水) | <u>グループディスカッション全体討議</u><br><br>発表<br>質疑<br>コメント                  | <u>MDP</u><br>「企業人のあり方」<br><br><u>講義</u><br>「企業人の能力向上法」                          | <u>論文作成</u><br>「わが社の経営の基本課題と解決方向について」<br><br><u>目標設定</u><br>「更なる成長に向けた3ヵ月後のありたい姿」 |
| 第5日<br>(木) | <u>論文発表</u><br>質疑・コメント<br><br><u>終講式</u><br>終了スピーチ・終了講義          | 昼食後解散  |   |

(注-1) プログラムの一部を変更する場合がありますので、ご了承下さい。

|               |  |
|---------------|--|
| 合宿研修後<br>3ヵ月間 | <u>コーチングセッション</u><br>合宿研修で設定した「3ヵ月後のありたい姿」をテーマに、月2回、3ヵ月間にわたりコーチングセッション（1回60分）を行い、目標達成や行動の習慣化のためのフォローアップを行います。<br><br>セッションは原則、電話で行います。（マイク付きイヤホンを提供・通信費は弊社負担）<br>セッション時以外でも、コーチングのテーマに関してはメールによる相談対応を行います。 |
|---------------|--|

(注-2) セッションの日時は、合宿研修終了後に受講生本人（または人事ご担当者）と調整の上、6回分を予め決めます。（予定変更の相談には応じます。）

## 第89回 若手リーダー錬成講座実施要領

- 日 時** 2018年9月2日(日)～9月6日(木) ※合宿研修
- 場 所** 山形県上市市 蔵王坊平高原 ライザ・ウッディロッジ
- 交 通** ① 到着の日は、東北・山形新幹線かみのやま温泉駅にバスを出します。  
東京発8:56→かみのやま温泉着11:28分の東北・山形新幹線「つばさ129号」をご利用下さい。  
② 現地直行の方は、12:00までに「ライザ・ウッディロッジ」に御集合下さい  
(山形空港より車で1時間20分、かみのやま温泉駅より車で30分位です)。  
( **ダイヤ変更の可能性もあります**ので上記詳細は、「**事前留意事項**」で御案内します。 )
- 参加対象** a 年齢満40歳以下の基幹社員(30歳前後が最も可)  
b 将来、企業の幹部となる素質のある心身にすぐれた方  
c このセミナーへの参加推薦を得た人  
上記3項目を満たす人  
(但し、年齢を超過していても、当方が了解した場合は受講できます。)
- 定 員** 25人
- 参 加 料** 250,000円(消費税別)  
※5日間の合宿研修および3ヵ月間のコーチングセッション、資料代、宿泊費等含む
- 参加手続** 参加申込書を弊社宛にe-mailまたは郵送にて送付していただきます。  
原則として、申込順としますが、申込者が適当でないと思われる時は、派遣責任者に連絡の上、変更をお願いすることがあります。
- 参加迄の手順**
1. 申込をいただきますと、当方より会社および本人に受付の連絡をすると共に「**事前留意事項**」、**課題図書『企業および企業人』(七訂版)、論文課題等**をお送りします。
  2. その他必要ならば、事前に勉強しておくことの案内、参考文献・資料等の案内も致します。
  3. 上記課題に取り組むためにも1か月は準備が必要ですので、  
**申込確定締切り：7月末日(参加者確定のこと)**  
と致します。
- 終了時間について**  
以下の新幹線に間に合うように終了します。  
東京・山形新幹線 つばさ144号(かみのやま温泉発14:13→東京着16:48)に間に合うようバスを出します。  
( **ダイヤ変更の可能性もあります**ので上記詳細は、「**事前留意事項**」で御案内します。 )

## 若手リーダー錬成講座 受講申込書

受講要領了承の上、若手リーダー錬成講座を受講致したく申し込みます。

|       |                |                            |
|-------|----------------|----------------------------|
| 会社    | 社名及び代表者名       |                            |
|       | 住所・電話番号        | 〒<br><br>TEL (     )     — |
| 連絡責任者 | 所属部署・電話番号      | TEL (     )     —          |
|       | 役職             |                            |
|       | ふりがな           |                            |
|       | 氏名             |                            |
| 受講者概要 | e-mail・address |                            |
|       | 受講者人数          | _____人                     |
|       | 受講者の基本属性       | 記入例：係長相当資格昇格者              |
|       | 受講させる目的        |                            |

※上記内容を e-mail にて info@nihon-keieikaihatsu.co.jp 宛にお送り頂いても結構です。

※上記申込とは別に以下の事項を記載した受講者リストを e-mail にてお送り下さい。

- ①受講者氏名、②ふりがな、③e-mail・address、④生年月日、⑤入社年月日、
- ⑥所属部署、⑦役職、⑧本人連絡先（携帯電話番号）、⑨出身大学および専攻